中日新聞　2021年8月2日　朝刊12頁

「環境配慮型」スタジアムに

概要発表　23年2月 完成見込み

鈴鹿ポイントゲッターズ

Jリーグ昇格を目指す日本フットボールリーグ（JFL）の鈴鹿ポイントゲッターズ（鈴鹿市）の運営会社は二日、同市の県営公園「鈴鹿青少年の森」に建設を予定しているホーム戦用のスタジアムの概要を発表した。収容人数はJ3基準の五千人で、すり鉢に近い現場の地形を生かして斜面に客席を設けるなど環境配慮型の設計とした。当初の構想から五カ月遅れ、二〇二三年二月の完成を見込む。

計画区域の五万平方㍍は公園南側に位置し、サーキット道路と呼ばれる県道沿い。市が県から無償で借り、運営会社が自前でスタジアムを整備・管理する。

着工時期は当初、今年六月に予定していたが、九月にずれ込んだ。サブグラウンドの建設計画を追加したため、県条例に基づく現場一帯での環境調査に時間がかかったという。「森の中のスタジアム」を強調するため、整備で伐採した樹木は可能な限り区域内に移植する。

鈴鹿ポイントゲッターズのホームスタジアムの概要を発表する吉田社長＝鈴鹿市役所で

サブグラウンドは二四年二月の完成予定。スタジアムの規模は最終的にJ1基準の一万五千人にする考え。運営会社の吉田雅一社長は市役所で会見し、「多くの人に愛されるスタジアムとなるよう今後も市、県と協働していきたい」と話した。

（片山健生）